

株主懇談会 資料



当社の概況について

平成18年6月29日

中央電気工業株式会社

目次

I. 経営理念	P 1 ~ 2
II. 主な事業の動向	
(1) マンガン合金鉄事業	P 3 ~ 6
(2) 環境事業	P 7 ~ 9
(3) 機能材料事業	P 10 ~ 11
(4) 当社では	P 12
別紙 1 ~ 2	<セグメント別業績及び経常利益>

I . 経営理念

法令遵守と社会的モラルを尊重した

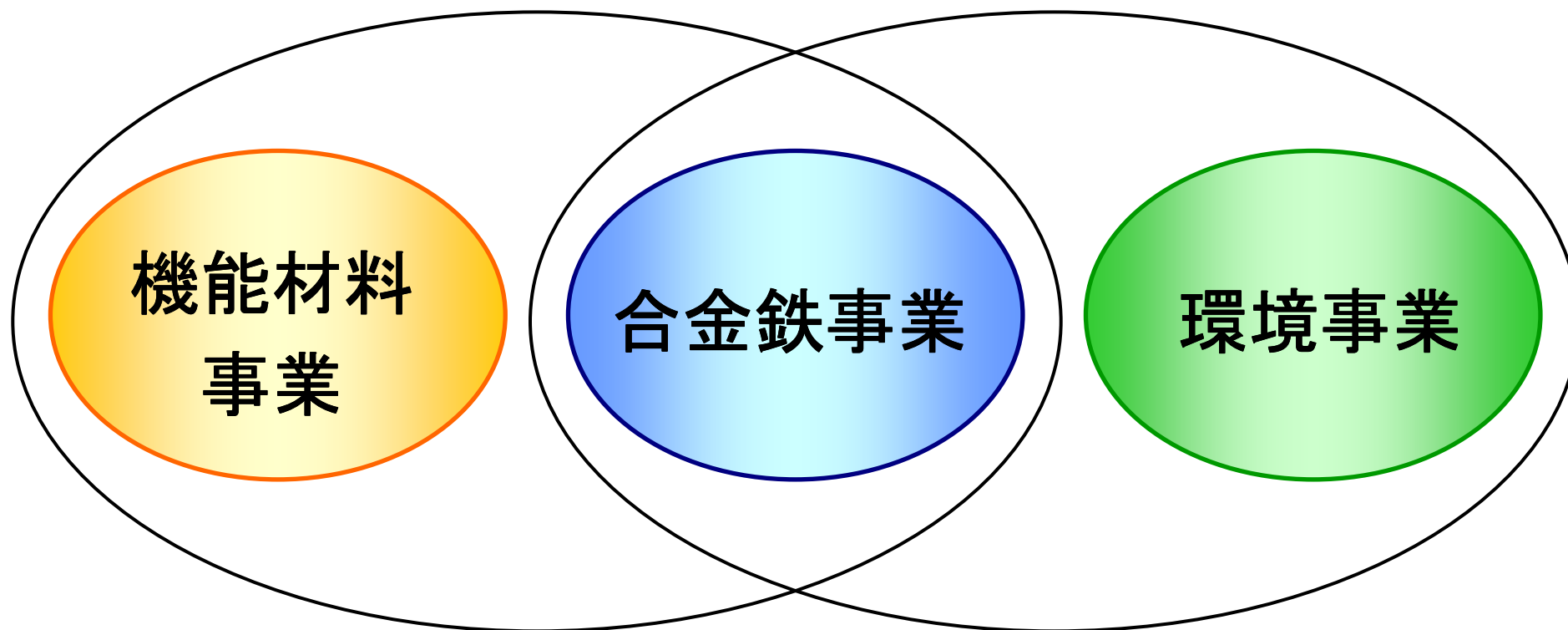
健全な事業活動を通じ

社会の繁栄に貢献するとともに、

ステークホルダーの皆様から

より信頼される企業を目指します。

< 当社の事業領域 >



Ⅱ. 主な事業の動向

(1) マンガン合金鉄（以下合金鉄）事業 ——鹿島工場——

- ① 合金鉄は鉄鋼向、良質な鋼(はがね)の製造に不可欠な副原料。

コア事業、市況低迷時でも安定的な収益確保が目標。

今夏、1号電気炉で大改修を実施。
需要増に対応した設備能力の最適化を図り、
一層の安定稼働とコストの低減を目指す。

② 需要動向

好調な粗鋼生産に支えられ、高水準な需要が続いている。

③ 価格動向

昨年は1昨年の高騰市況から大幅下落。

昨年の7～9月を底に、徐々に市況回復傾向にあるが、足取りは重い。

市況低迷の構造的要因は、中国や旧CIS諸国の過剰生産設備能力による。

図1. 全国粗鋼量

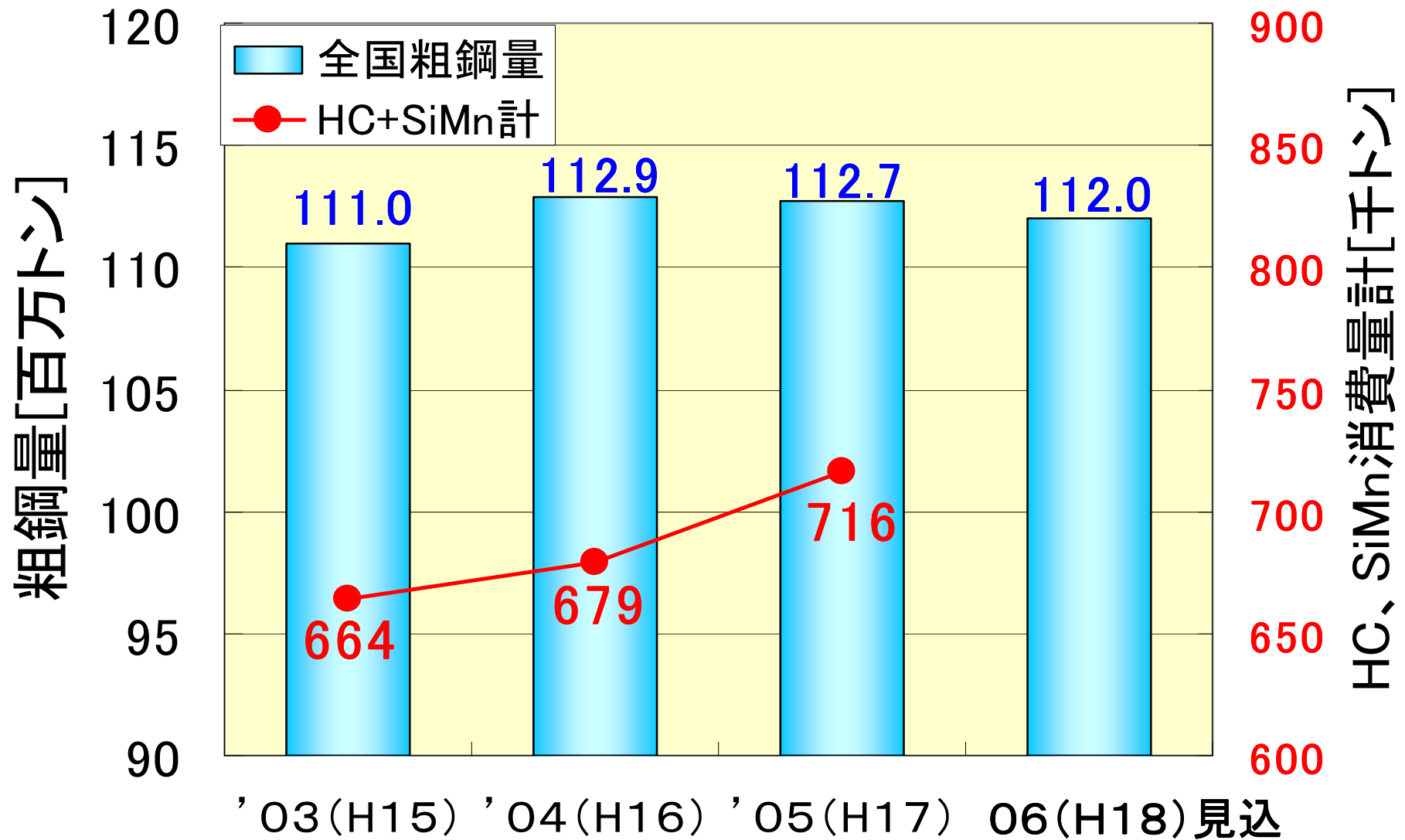
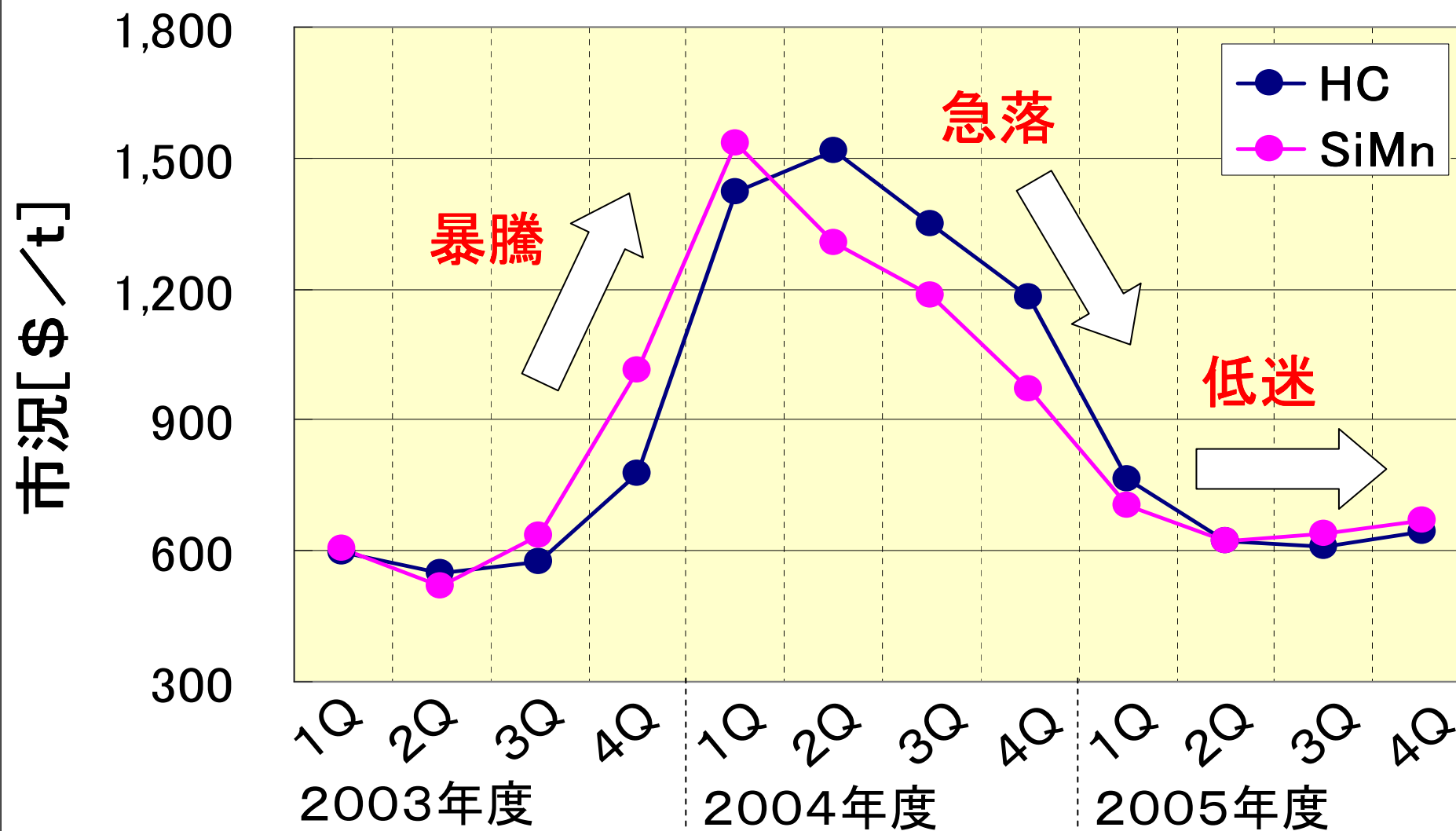


図2. 合金鉄市況推移



(2) 環境事業

——鹿島工場——

- ① 平成7年、民間企業として日本で初めて焼却灰溶融処理を開始。

一般廃棄物焼却灰や産業廃棄物焼却灰は、社会的に年々その処理が困難に。

汚染土壌や廃石綿の処理ニーズも高まっており、当社の果たすべき役割は増大。

② 当初、合金鉄炉活用でスタート後、
専用炉を建設。

『廃棄物溶融リサイクルセンター』に。

年間処理能力は合計6万5千トン。

昨年：約5万t、今年も約5万t継続予定。

H7以来、H18／3末で累計20万トン達成。

社会貢献事業、誠実・堅実な運営。

【環境事業(処理対象・施設・能力等)】

		H7年～	H14年	H16年	H17年～
処理対象		一般廃棄物焼却灰	産業廃棄物焼却灰	汚染土壌	→
					→
					→
処理施設	合金炉	1号炉	→	→	→
		2号炉	→	→	→
	専用炉		EM1	EM2	→
処理能力／年		14千t	40千t	65千t	65千t
処理量／年		10千t	26千t	40千t	50千t

(3) 機能材料事業 — 妙高工場 —

主力は水素吸蔵合金。

(以下『MH』、ニッケル水素電池の負極材料)

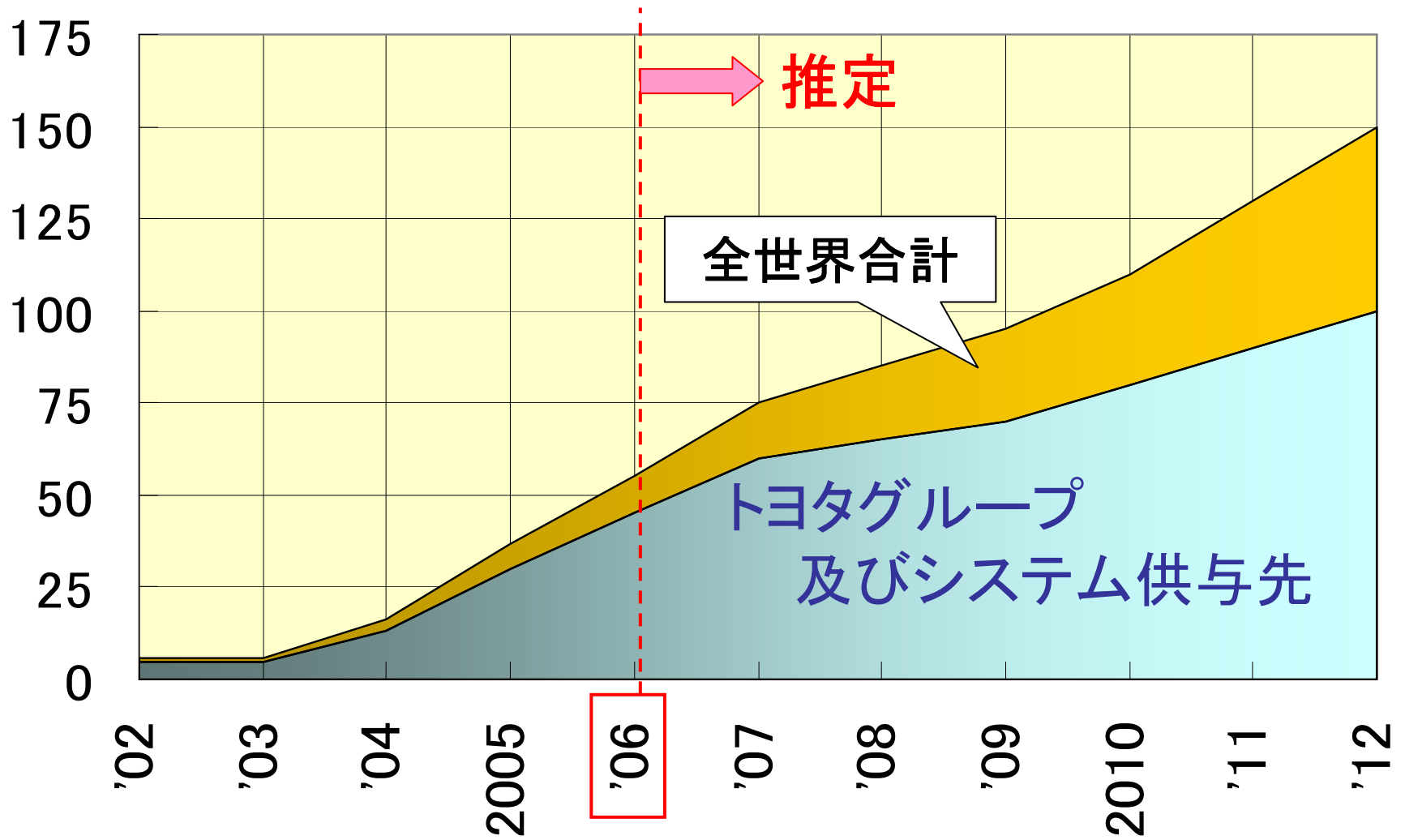
ハイブリッド車用の需要増加はあったものの、民生用は中国との競争激化により大幅減少、収益も悪化した。

結果、自動車用の比率は2/3へ。

更なる自動車向け数量増と合理化等で、早期黒字化を目指す。

図3. ハイブリッド車販売推移

販売台数(プリウス換算)[万台]



(4) 当社では、情報収集の充実に努め、
経営判断を適正かつ効率的に行ない、
常に業績向上を目指して参ります。

経営の透明性を高める為、
迅速な情報開示に努め、株主の皆様のご
期待に沿えるよう取り進めて参ります。

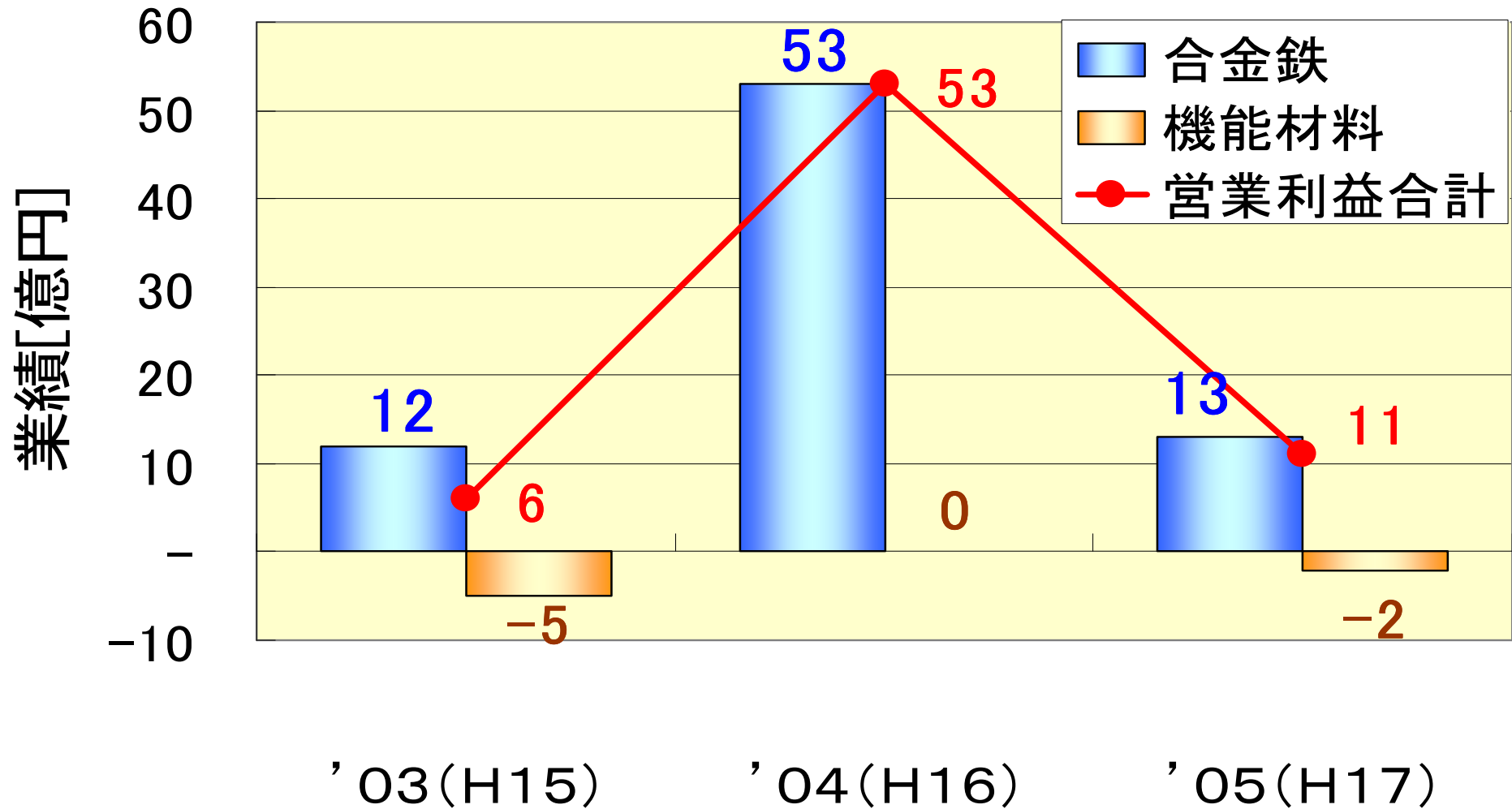
【ホームページアドレス】

<http://www.chu-den.co.jp>

以上

別紙1

セグメント別業績推移(営業利益)



經常利益推移

□ 好転
■ 悪化

